

令和5年度庄原市複式指導研修会

令和5年5月17日(水) 庄原市ふれあいセンター

複式授業における指導の在り方を研修することを通して、児童生徒が主体的に学び合う学習を目指した授業改善を図ることを目的に、研修会を行いました。

【講話・協議】「複式学級の指導の在り方について」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子

- 庄原市における複式学級を有する小学校は、本年度は6校となっている。複式学級の学習指導の効果を高めるには、両学年の学習段階をずらして「直接指導」と「間接指導」を適切に組み合わせることが大切である。
- 複式学級における指導の手引きをもとに、複式学級の指導の在り方について確認した。また、複式学習指導の進め方についての動画を視聴し、取組の工夫や難しさについてグループ協議を行った。グループ協議の中で、ICTの取組の紹介があり、効果的な活用について理解が深まった。

【講話・演習】「複式学級の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子

- 複式学級における指導方法には、異教材指導と類似教材指導がある。カリキュラム・マネジメントの視点で単元を組み合わせることで、2学年の学習が関連付けられ、児童は学びのつながりを意識することが期待できる。
- 演習では、複式学級の学習指導案を作成した。単元で身に付けさせたい力を明確にし、1単位時間の学習過程をどのように展開するかを考えることが大切である。「直接指導」「間接指導」のほかに「同時間接指導」を設定することで、個別指導の時間も確保することができる。



【参加者の感想等】

- 児童の実態に合わせた指導を第一に考えていきたい。また、自分の意見をしっかりと言える児童の育成が大切だと感じた。
- 異学年同内容を同時期に仕組み、上学年が下学年に伝えたり説明できたりすると、より学習の理解度を高めていけると感じた。
- ICTを活用し、授業の流れや学習の方法を児童と共有することで同時間接指導を設定できると学んだ。
- 自立した学習者の育成のために、それぞれの学年で付ける力は何かについて、児童の実態をもとに話し合い、そのための指導の工夫についてアイデアを出し合いたい。